

企画展「世界自然遺産～奄美大島・徳之島～」

県立博物館

企画展「世界自然遺産～奄美大島・徳之島～」



博物館本館1階において、企画展「世界自然遺産～奄美大島・徳之島～」を開催しています（令和6年2月25日まで）。奄美大島と徳之島は、沖縄島北部及び西表島とともに令和3年7月に世界自然遺産に登録されました。奄美大島と徳之島の多様な自然の魅力を剥製や標本、写真で紹介します。

企画展の紹介

生物多様性の豊かな島

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島は、生物多様性が評価され世界自然遺産に登録されました。生物の豊かな個性とつながりを生物多様性といい、奄美大島と徳之島には世界的に評価された地域が広がっています。

今回の企画展では、奄美大島と徳之島の環境を、森、川、海岸の3つに分けました。それぞれの環境で生息・生育する多種多様な生物の中から、植物について紹介します。

森のいきもの～着生植物と寄生植物～



【照葉樹林（龍郷町）】 【寄生植物 ヤッコソウ】

奄美大島と徳之島には、ブナ科の照葉樹を中心とした森が広がっています。この照葉樹林の主要

な樹種であるスダジイ（イタジイ）の幹は、ナゴランやヤドリコケモモなど着生植物の生育場所となっています。また、11月頃には根の周辺に寄生植物のヤッコソウが観察されることがあります。ヤッコソウは、スダジイの根から光合成で作られた栄養分を吸収して生育します。また、春に咲く花の蜜や花粉には昆虫が集まり、秋に実るどんぐりは森に生息する動物の食料となります。このようにさまざまな生物が関わり合いながら生活しています。

川のいきもの～アマミセイシカ～



【マテリヤの滝（大和村）】 【アマミセイシカ】

奄美大島と徳之島の川の上流部は、マテリヤの滝など流れが速い溪流となっています。奄美大島の溪流周辺には、盗掘や森林開発などにより個体数が激減しているアマミセイシカが生育します。企画展示室では、アマミセイシカのレプリカを展示しています。

海岸のいきもの～砂地の植物～



【神之嶺海岸（徳之島町）】 【ハマボウフウ】

奄美大島と徳之島には自然海岸が残されています。その海岸の砂地には、砂に埋もれると、地下茎を上方に伸ばすハマボウフウなどが生育しています。

企画展会場には動物や昆虫の展示もあります。是非ご来館ください。